

I. 法人の概要

1. 学校法人の沿革

- 昭和 26 年 6 月 愛知県より菊武タイピスト学校（現：菊武ビジネス専門学校）設置認可
- 昭和 28 年 2 月 愛知県より学校法人高木学園（現：菊武学園）設立認可
- 昭和 37 年 4 月 守山女子商業高等学校（現：菊華高等学校）開設
- 昭和 40 年 4 月 名古屋女子商科短期大学（現：名古屋経営短期大学）開設
昭和 43 年 4 月 守山女子商業高等学校に通信制課程開設
- 昭和 44 年 4 月 菊武幼稚園開設
- 昭和 63 年 4 月 名古屋女子商科短期大学に経営情報科開設
- 平成 元年 4 月 ビジネス専門学校名古屋インフォメーションスクール開設
- 平成 4 年 4 月 守山女子商業高等学校を菊華高等学校と改称し、全日制課程普通科開設。
- 平成 7 年 4 月 ビジネス教養専門学校エクセレンス開設
- 平成 8 年 5 月 ビジネス専門学校名古屋インフォメーションスクール廃止
- 平成 12 年 4 月 名古屋産業大学環境情報ビジネス学部開設
- 平成 16 年 4 月 名古屋産業大学大学院前期（修士）課程（環境マネジメント研究科）開設
名古屋産業大学環境情報ビジネス学部人間環境マネジメント学科増設
- 平成 19 年 4 月 名古屋経営短期大学ビジネス実務学科・人間情報学科の募集を停止し、2 学科を統合した形の総合ビジネス学科を開設。
名古屋産業大学大学院後期（博士）課程（環境マネジメント研究科）開設。
名古屋経営短期大学子ども学科開設。
- 平成 20 年 4 月 名古屋経営短期大学健康福祉学科開設。
- 平成 22 年 10 月 平成 23 年 4 月開設 尾張旭市立稲葉保育園 指定管理者に決定

2. 設置する学校の学部、学科および各学校の入学定員、現員数

平成 22 年 4 月 1 日現在

学 校 名	学部・学科・課程名等	入学定員	収容定員	入学者数	現員数
名古屋産業大学大学院	環境マネジメント研究科	前期課程 10 人	20 人	12 人	25 人
	環境マネジメント専攻	後期課程 3 人	9 人	2 人	6 人
名古屋産業大学	環境情報ビジネス学部				
	環境情報ビジネス学科	220 人	860 人	190 人	774 人
	人間環境マネジメント学科	募集停止	200 人		111 人
名古屋経営短期大学	総合ビジネス学科	135 人	270 人	116 人	247 人
	子ども学科	60 人	260 人	31 人	111 人
	健康福祉学科	60 人	120 人	54 人	77 人

菊華高等学校	全日制課程商業科	270人	810人	59人	165人
	全日制課程普通科	90人	270人	175人	476人
	通信制課程商業科	230人	690人	176人	485人
学 校 名	学部・学科・課程名等	入学定員	収容定員	入学者数	現員数
菊武幼稚園		69人	209人	72人	211人
菊武ビジネス専門学校	商業実務専門課程	80人	80人	11人	11人
	商業実務高等課程	240人	720人	176人	485人
ビジネス教養専門学校 エクセレンス	商業実務専門課程	160人	280人	85人	173人
	文化教養専門課程	募集停止			
合 計		1,627人	4,798人	1,159人	3,357人

3. 役員に関する事項

当学園の平成23年3月31日現在の選任区分別理事は以下のとおりです。

寄附行為の役員定数は、8~11人で、欠員はありません。

- 1号理事（教職員）：伊藤 雅一、馬淵 正雄、山岸 鳴門
 2号理事（評議員）：高木 弘恵、井元 明正
 3号理事（学識経験者）：高木 清秀、吉田 雅樹、梅村 清弘、岡谷 篤一
 山口 淳、古橋 エツ子

4. 評議員に関する事項

当学園の平成23年3月31日現在の選任区分別評議員は以下のとおりです。

寄附行為の評議員定数は、19~24人で、欠員はありません。

- 1号評議員（法人職員）：高木清秀、青木吉貞、吉永茂樹、久保田富也、高木秀典、二宮邦夫
 青木 修、山口 淳、
 2号評議員（学園卒業者）：浅井明己、大石清美
 3号評議員（学識経験者）：高木武彦、高木弘恵、井元明正、高木重幸、池田英二、竹内隆史
 平本晴康、渡邊哲郎、土井隆夫、原田隆史、大嶋啓介、市橋 豊
 杉山寿美

5. 教職員・その他に関する事項

評議員の変更は、平成22年5月21日の評議員会で名古屋産業大学環境情報ビジネス学部長の久保田富也氏が1号評議員に、同日の理事会でエクセレンス講師・元東海テレビアナウンサーの杉山寿美氏が3号評議員に選任されております。また、平成23年3月25日の理事会で1号評議員の青木吉貞の退任に伴い後任として23年4月1日付で名古屋産業大学・名古屋経営短期大学事務局長に就任予定の加藤達也氏が1号評議員に、同じく1号評議員久保田富也氏の退任に伴い後任として23年4月1日付で名古屋産業大学学長補佐・教授に就任予定の吉川 智氏が1号評議員に推薦されるとともに、これまで1号評議員でビジネス教養専門学校エクセレンス校長であった高木秀典氏が同校校長を退任するのに伴い3号評議員に選任変更され、同校副校長の梶原幹史氏が同校校長に就任する予定で1号評議員に推薦されており、23年度よりこの3氏が新しく評議員に就任することになっております。

II. 事業の概要

1. 平成 22 年度の入学者数

平成 22 年度の入学者数は、大学は大学院も含めて 33 名の減、短大は 15 名の増、高校は通信制も含め 12 名減、幼稚園は 5 名増、菊武ビジネス専門学校は 10 名減、エクセレンスで 10 名減と減少校が多く学園全体の入学者数としては 45 名の減となりました。

学園全体の在学学生総数は、大学の人間環境マネジメント学科の募集停止が大きく影響し、前年度より 127 名少ない 3,357 名となっております。

2. 平成 22 年度のその他の事業概要

本部

22 年度も 4 月、6 月、7 月、9 月、11 月、3 月に学園研修を実施し、8 月には、メインイベントである「菊武夏まつり」を実施致しました。その他、尾張旭市立保育園の指定管理獲得推進、名古屋市体育施設（スポーツヒルズ）買受推進を行い夫々良い結果を収めることが出来ました。

大学

21 年度に経済産業省より「体系的な社会人基礎力育成・評価システム開発実証事業」、文部科学省より「学生支援推進プログラム」の採択を受けたのに引き続き、22 年度は、文部科学省「就業力育成支援事業」の採択を受け、環境情報ビジネス人材を育む「共育課程」を編成するための取組みを始めました。この三つの教育プログラムを積極的に活かし、建学の精神に基づく教育の特色づくりとキャリアガイダンスの一層の充実を図り、ビジネススクール志向を強化するためのカリキュラム変更を行い、3 年次の前期 Semester で企業と連携したインターンシップや実践型学習を集中的に実施する「ビジネストレーニングプログラム」を取り入れた新カリキュラム作りを推し進めました。この新カリキュラムは平成 24 年 4 月よりスタートさせます。また、ビジネストレーニングの場づくりの一環として学生が中心になって運営する「株式会社名古屋産業大学グリーン・ソーシャルビジネス」を設立しました。

短大

22 年度も健康福祉学科が愛知県と連携し人材確保対策事業の一環としてシンポジウム・公開講座・介護技術講習会等を開催し、地域住民や介護福祉士を目指す高校生等多数の参加を得ました。又、大学との共同事業として文部科学省に採択された「学生支援推進プログラム」も 2 年目の事業を実施しました。又、10 月には名古屋で開かれた「あいちトリエンナーレ」と COP10 の 2 大イベントに学生が参加し活躍しました。愛知県美術館で行われた「キッズトリエンナーレ」では「ナンデモ絵筆で描こう」に参加、教員・学生 9 名が県内小学生 19 名に絵を描く楽しさを指導し、愛・地球博記念公園で開かれた COP10 交流事業ではコーラス部 6 名が教員のピアノ伴奏で「ジブリメドレー」などを合唱しました。

菊華高等学校

年度当初より生徒募集強化策の一つとして新コースを立ち上げ23年度より募集を開始し24年度より入学者の受入が出来るようカリキュラム改編に向けての検討作業を推し進めました。8月には学園全体で開催する「菊武夏祭り」に合わせて9回目の中学生将棋選手権大会を開催致しました。施設・設備面では、北館廊下、北館・南館階段のリニューアル工事を実施致しました。

菊武ビジネス専門学校

生徒募集強化策として昼間定時制新設、学年制から単位制への変更等色々模索しましたが、最終的には学科名変更、授業科目名の変更に止めました。課外活動では、今年度も8月に「にっぽんど真ん中祭り」に生徒・教員約70名が参加・熱演をしました。10月には専門学校新聞社主催の「私の仕事」コンクールで、4年連続「団体優秀賞」を受賞いたしました。2月にはスケート部の選手がインターハイ・冬季国体に出場し健闘致しました。

ビジネス教養専門学校エクセレンス

今年度は、新学科「トータルビューティ科」の3領域『美容・食・健康』業界へのアプローチと「企業間連携」の仕組み作りを推進しました。4月には例年のごとく「サンジョルディイベント(オアシス21)」に参加しブライダル科による「人前模擬結婚式の披露」を行い、7月には愛知県立農業高校「農業クラブフラワーコンテスト」、8月には全国フラワーコンテスト高校生大会、11月にはブライダル科による「本物の結婚式・披露宴」を「大改造!! 劇的ビフォーアフター」内にて開催・収録等々実施致しました。

菊武幼稚園

例年のごとく10月に年長さんが春日井市民パレードに参加、11月に幼年消防クラブの発表をしています。施設・設備面では、園舎の内装塗装工事、園庭手洗い場改修工事、ガス管入替工事等を行いました。

3. 平成22年度の主な契約

名古屋産業大学	:	243 PC 教室機器レンタル契約、食堂内コンビニ設置契約
名古屋経営短大	:	事務部門ワンフロア一化工事契約 (大学と共同)
菊華高等学校	:	北館・南館一部リニューアル工事契約
菊武ビジネス専門学校	:	包括保守サービス契約、IM教室PCリース契約
菊武幼稚園	:	園舎内装塗替修繕契約、ガス管入替工事契約

Ⅲ. 財務の概要

1. 経年比較

(1) 資金収支計算書

(資金収入の部)		(単位：千円)		
科 目	21 年度決算	22 年度決算	差 異	
学生生徒等納付金収入	2,071,104	2,024,202	△46,902	今年度は、短大、幼稚園を除き在籍者数が減少し、学生生徒等納付金収入は142百万円の大幅減少となりましたが、学納金収入より差引かれる補助金による軽減額が就学支援金の関係で95百万円減っていますので全体としては47百万円の減少に止まりました。
手数料収入	32,044	30,307	△1,737	国庫補助金は短大の子ども学科・健康福祉学科で経常費補助金を受けようになり、大学・短大へのG P・就業力の特別補助もあり増加しました。地方公共団体補助金は短大で人材確保対策補助金を引き続き獲得したものの就学支援金の関係で授業料軽減補助金が減少し、経常費補助金も減少したため全体として大幅減となりました。
寄付金収入	7,747	16,253	8,506	
補助金収入	806,759	720,815	△85,944	今年度より授業料軽減補助金の債務負担行為が無くなりました。
資産運用収入	12,301	9,704	△2,597	
資産売却収入	318,000	0	△318,000	在籍者数減少で学納金関係は減少しましたが土地売却の前受金130百万円が入り大幅増。
事業収入	29,640	66,180	36,540	
雑収入	38,582	51,570	12,988	前期末未収入金の大部分を占める「授業料軽減償還金補助金」が減少。
借入金等収入	177,911	0	△177,911	
前受金収入	444,130	541,131	97,001	
その他の収入	341,494	232,798	△108,696	
資金収入調整勘定	△712,083	△535,480	176,603	
当年度資金収入合計	3,567,629	3,157,479	△410,150	
前年度繰越支払資金	1,062,148	1,234,010	171,862	
収入の部合計	4,629,777	4,391,489	△238,288	

(資金支出の部)		(単位：千円)		
科 目	21 年度決算	22 年度決算	差 異	
人件費支出	1,893,005	1,832,907	△60,098	大学教員給与・役員報酬の見直しを初め、全教職員の3月期末手当廃止等人件費削減を実施しましたので減少しました。
教育研究費支出	579,158	593,636	14,478	大学・短大の学生に対する住宅費補助の方法変更・留学生・奨学生の増加による奨学費支出と特別補助金を原資とした経費支出が増加し各部門の経費節減努力による減少分では吸収しきれず増加しました。
管理経費支出	241,283	213,268	△28,015	
借入金等利息支出	6,089	5,101	△988	短大が愛知県より受託した福祉・介護人材確保事業による経費支出が増加したものの、各部門の経費節減努力が奏効し減少しました。
借入金等返済支出	265,678	260,125	△5,553	
施設関係支出	6,507	28,914	22,407	今年度は新規及び更新による有価証券購入支出が発生しませんでしたので大幅減となりました。
設備関係支出	25,238	19,580	△5,658	
資産運用支出	268,727	10,693	△258,034	
その他の支出	154,507	128,362	△26,145	
資金支出調整勘定	△44,425	△98,689	54,264	
当年度資金支出合計	3,395,767	2,993,897	△401,870	
次年度繰越支払資金	1,234,010	1,397,592	163,582	
支出の部合計	4,629,777	4,391,489	△238,288	

(2) 消費収支計算書

消費収支計算について資金収支計算と重複する部分は省略し、資金収支計算で説明していない部分の説明を加えてその内容をご報告いたします。

(消費収入の部) (単位：千円)

科 目	21 年度決算	22 年度決算	差 異
学生生徒等納付金	2,071,104	2,024,202	△46,902
手数料	32,076	30,292	△1,784
寄付金	12,284	19,003	6,719
補助金	806,759	720,815	△85,944
資産運用収入	12,302	9,704	△2,598
資産売却差額	7,975	0	△7,975
事業収入	29,640	66,180	36,540
雑収入	39,368	52,418	13,050
帰属収入合計	3,011,508	2,922,614	△88,894
基本金組入額合計	△ 44,602	△ 3,114	41,488
消費収入の部合計	2,966,906	2,919,500	△47,406

入学検定料が生徒募集の激化から減免が増え減少しました。

特別寄付は微増、現物寄付は若干の減、主に一般寄付が増加して合計で増加。

施設設備利用料は少し増えましたが、リーマンショック後安全性重視で低金利運用となり受取利息・配当金が減少しました。

短大の健康福祉学科で受入の職業訓練生からの授業料は受託事業収入となるため大幅増となりました。

昨年度比退職者増で退職金財団よりの交付金が増えました。

(消費支出の部) (単位：千円)

科 目	21 年度決算	22 年度決算	差 異
人件費	1,885,579	1,819,223	△66,356
(うち退職給与引当金)	(3,104)	(39,331)	(36,227)
教育研究経費	877,413	836,398	△41,015
(うち奨学費)	(188,134)	(216,943)	(28,809)
(うち減価償却費)	(298,248)	(242,369)	(△55,879)
管理経費	275,402	239,106	△36,296
(うち減価償却費)	(34,124)	(25,763)	(△8,361)
借入金等利息	6,089	5,101	△988
資産処分差額	330	4,736	4,406
徴収不能引当金繰入額	1,391	363	△1,028
徴収不能額	480	1,543	1,063
消費支出の部合計	3,046,684	2,906,470	△140,214

退職者増で退職金支払増。その分退職金引当金繰入も増えました。

奨学費・補助活動費が増加しましたが、各部門の経費節減努力並びに減価償却額の減が大きく大幅減となりました。

愛知県からの受託事業経費増を吸収するに十分な各部門の経費節減に減価償却額減が加わって大幅減。

故障による未償却資産の除却、図書を除却が予想以上に発生したため大幅増となりました。

(3) 貸借対照表

貸借対照表について、前年度末からの増減の主なものの説明を付してご説明いたします。

科 目		21 年度決算	22 年度決算	差 異
資 産	固定資産	12,599,821	12,451,483	△148,338
	うち有形固定資産	11,420,551	11,198,570	△221,981
	その他の固定資産	1,179,270	1,252,913	73,643
産	流動資産	2,394,464	2,420,026	25,562
合 計		14,994,285	14,871,509	△122,776

減価償却額が今年度新規に取得した施設設備額を上回り減少しました。

名古屋市体育施設売買契約に伴う多額の契約保証金が発生し増加。

科 目		21 年度決算	22 年度決算	差 異
負 債	固定負債	1,150,560	900,578	△249,982
	流動負債	871,650	982,712	111,062
計		2,022,210	1,883,290	△138,920
基 本 金		16,740,890	16,744,003	3,113
消費収支差額の部合計		△3,768,815	△3,755,785	13,030
合 計		14,994,285	14,871,509	△122,776

一般借入金 65 百万減、授業料軽減借入金（長期相当分）171 百万減、退職給与引当金 14 百万減となっています。

退職金は期末未払いとなります。今年度は前年度に比べ退職金が多かったため未払金が 55 百万の増、授業料軽減借入金（短期相当分）24 百万減、不動産売買契約締結による前受金受領で前受金 97 百万増、預り金 17 百万減で合計 111 百万の増となっています。

(参考)

正 味 資 産	21 年度決算	22 年度決算	差 異
	12,972,075	12,988,219	16,144

※ 正味資産＝資産－負債（＝基本金＋消費収支差額）

減価償却額の累計額	21 年度決算	22 年度決算	差 異
	5,680,453	5,858,219	177,766
基本金未組入額	355,000	307,631	△47,369

2. 借入金の状況

当学園の借入金は下表のとおりです。毎年度、愛知県私学振興事業財団より菊華高校及び菊武ビジネス専門学校の授業料軽減用資金として何がしかの借入をしておりますが、公立高校授業料無償化の関係で私学に通う生徒にも国から就学支援金の名前で同趣旨のお金が支払われることになり、この授業料軽減用借入という債務負担行為が無くなりましたので、授業料軽減借入金は減っていく一方になりました。しかし、この授業料軽減借入金は、償還に要する財源を愛知県から授業料軽減借入金償還補助金として全額補填を受けることになっていますので学園としての返済負担が発生しないことはこれまでと変わりません。

(借入金明細表)

(単位：千円)

借 入 先	21 年度末残高	22 年度末残高	増 減	摘 要
日本私立学校振興・共済事業団	310,000	260,000	△50,000	4号館建設資金他
市 中 金 融 機 関	45,000	30,000	△15,000	3号館増築時設備資金
愛知県私学振興事業財団	852,565	657,439	△195,126	愛知県より全額補填あり
合 計	1,207,565	947,439	△260,126	

2. 学校債の状況

当学園は、学校債を発行いたしておりません。

3. 寄付金の状況

当学園に対する寄付金は21年度12,284千円でありましたが22年度は19,003千円となりました。現物寄付は前年度より1,786千円減りましたが、特別寄付は550千円、一般寄付は7,956千円増加しましたので合計としては、前年度より6,719千円増加しております。

IV. 決算期後に生じた学校法人の状況に関する重要な事実

該当する事実はございません。

V. 対処すべき課題

「少子高齢社会にあって年々厳しくなる学生・生徒・園児募集にどれだけ成果を挙げられるか？」言い換えれば「各部門が収入を安定的に確保し自立すること」が対処すべき最優先課題であることに変わりありません。